



学校創立141周年  
**百年松**

阿木名小中学校便り 令和2年5月20日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」  
あきらめず  
あきらめず努力する子ども  
あきらめず努力する子ども  
あきらめず努力する子ども  
仲よく笑顔いっぱいの子ども  
~花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子~



阿木名小中学校

## 当たり前のありがたさ

校長 川原 啓司

3月からの度重なる臨時休校がようやく終わり、11日(月)から学校が再開しました。元気に登校してくる子どもたちの姿を見て、まずはひと安心といったところです。休業中は各家庭で感染防止等にご協力いただき感謝申し上げます。なお、保護者の皆様におかれましては臨時休業による学習の遅れについてご心配されていると思います。本校ではこれまで5限授業だった月曜日の校時を変更し、小学3年生以上は6限まで授業を実施します。また、家庭訪問の中止や修学旅行等の学校行事を2学期以降に延期するなどして当面の授業時数を確保していきます。さらに、地域への社会科見学等も感染予防に努めながら再開していきますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、奄美地方は先日梅雨入りし、校庭のデイゴの樹も真っ赤な花をつけています。季節は着実に春から夏へと移り変わっています。全国に出されていた緊急事態宣言も鹿児島県を含め39県で解除され、少しずつ日常が戻ってくるのではないかと期待されています。

これまで当たり前で過ごしていたことが今回の新型コロナの影響で制限され、あらためて当たり前でできていたことへのありがたさを感じている方も多いのではないのでしょうか。以前、全校朝会で子どもたちに「ありがたい」の反対の言葉は「当たり前」であるという話をしました。「ありがたい」は漢字で「有り難い」と書き、あることがむずかしい、めったにないという意味になります。このように私たちは当たり前と思っていることにはなかなかありがたみを感じないものです。それがなくなって初めて、そのありがたさに気付かされます。当たり前でできることの幸せをもっと感じる必要があります。

一方で、これまで当たり前だと思っていたものをこれを機会に見直してみることも必要です。学校の「9月入学」については賛否両論ありますが、今後検討していく価値がありそうです。また、「オンライン授業」も注目されました。今回のような災害や緊急時には大きな役割を果たせそうです。授業は学校で受けるのが当たり前という考えが見直され、学びの多様性が進むことになるかもしれません。

政府からは飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策をこれまで以上に取り入れた「新しい生活様式」が公表されました。緊急事態宣言は解除になったものの、まだしばらくは各自で感染予防に気を配る生活が続くそうです。過度に神経質になることなく、正しく恐れながら対応していきたいものです。

